

第 17 回日本在宅医学会大会 シンポジスト 抄録集・ホームページ掲載用原稿

シンポジウムテーマ		公募演題「実践的在宅医療～若き Dr の取り組み～」					
開催日	2015 年 4 月 25 日 (土)		時間	15:20-16:50		収容人数	150 名
講師情報	ふりがな	姓	べにや		名	ひろゆき	
	ご芳名		紅谷			浩之	
	ご所属		オレンジホームケアクリニック				
	部署					役職	

演題名 (80 字以内)

在宅医療からまちづくり、ひとづくりへ ～ふくいまちケアプロジェクト～

ご略歴 (300 字以内)

福井市出身

2001 年 福井医科大学 卒

福井県立病院、福井医科大学救急総合診療部にて 救急・総合診療研修

福井県名田庄診療所、高浜町和田診療所にて 4 年半 地域医療 研修・実践

福井市内で勤務医として在宅診療専門チームの立ち上げを経て、

2011 年 2 月福井県初の在宅医療専門クリニック、オレンジホームケアクリニックを設立

2012 年重度心身障害児レスパイトケア施設「Orange Kids' Care Lab.」開設

2013 年福井駅前にまちかど健康相談場所「みんなの保健室」開設

日本在宅医学会認定専門医育成プログラム「在宅医療が得意な医師養成プログラム・ふくい」プログラムコーディネーター

講演概要 (1000 字以内)

目的

在宅医療は高齢多死時代の地域包括ケアシステムの中で重要な役割を持つのは間違いないが、今後はより柔軟に地域ごとのニーズを受けとり、フォーマルなサービスに拘らず具体的なケアやサービスに結びつけることが望まれる。その時代に、その地域の在宅医として地域のインフラになるために、地域のニーズと医療職ができることをすりあわせ、活動に取り入れたいと考えた。

方法

「こちらが何をできるか」「制度や報酬の仕組みで成り立つか」ではなく、地域や現場が何を必要としているか、を優先的に考え活動展開を行った。具体的には、現場のスタッフとの個別面談、ボトムアップ方式でのプロジェクト会議、地域まちづくり企画会議への参加、学生を中心としたイベント企画、商店街関係者、建築家・デザイナー、市民、当事者団体らとの情報交換会、等を重ね、自分たちの活動指針や事業計画を作り上げていった。その際、医療介護分野の言葉に偏らず「わかりやすく、楽しく」伝えることを重視した。

結果

自施設スタッフ、地域多職種、まちづくりに関わる住民、医学生・研修医らの共感を得られ、施設・システムの立ち上げやイベントの開催を多岐にわたりに行うことができた。主なものとして、重度心身障害児者通所施設、まちかど健康相談ステーション「みんなの保健室」、まちづくりに関わる人たちとの合同イベント、自律型訪問看護ステーション、医療と IT に強い訪問介護ステーション、在宅クリニックにおける臨床宗教師活動、地域多職種研修会の開催、イベント型認知症カフェ、劇を使った市民公開講座、学生向けの地域医療・多職種連携研修会、等が立ち上がり、活動を開始継続している。

考察

現場のニーズやそこに集まる人々との対話から開始することで、共感を得ながら多岐にわたる活動を開始し、継続することができた。病院から医療が在宅医療というかたちで生活に届きはじめて今、さらに地域包括ケアシステム構築という「まちづくり」に繋げていくために、現場・地域とのさらなる対話・コミュニケーションが重要と考察した。